

# 三田市皿池湿原の保全に向けて

兵庫県三田市には皿池湿原と呼ばれる素晴らしい湿原群（9つの湿原）があります。皿池湿原は兵庫県版レッドデータブック（植物群落）のAランクおよび三田市版生態系レッドデータブックのAランクに指定されています。湿原の総面積が他の湿原よりもかなり大きいことや絶滅危惧種に指定されている動植物の種数が非常に多いことなどが高く評価されています。皿池湿原では絶滅危惧植物であるサギソウ、トキソウ、ムラサキミミカキグサ、カキラン、ミカヅキグサなどや、絶滅危惧昆虫であるハッチョウトンボ、ヒメタイコウチが数多くみられます。しかし、皿池湿原では様々な問題（遷移の進行に伴うヌマガヤ群落・ネザサ群落・木本群落の拡大、周辺部に広がる放置里山林の照葉樹林化など）が進行しており、湿原面積の縮小や生物多様性の減少、湿原景観の悪化などが危惧される状況にあります。当プロジェクトでは、このような問題の解決に向けた取り組みを三田市と連携しながら進めています。これまでの主な活動内容は下記のとおりです。

## ヌマガヤ群落の刈り取り実験

皿池湿原ではヌマガヤ群落の拡大が進行しています。湿原の生物多様性を維持するためにはヌマガヤ群落の拡大を抑制する必要があります。そこで、この群落の刈り取り実験を実施し、

その後の変化を追跡調査しました。その結果、ヌマガヤ群落は夏季の刈り取りで急速に衰退することがわかりました。また、地下水位の高い立地ではヌマガヤ群落の衰退後に湿原生植物の種多様性が急速に回復することなども明らかとなりました。

## 木本群落の除去

皿池湿原の内部および周辺部では木本類が増加傾向にあり、湿原の樹林化が進行しています。そこで、樹林化を抑制するための整備を2014年度に実施しました。湿原は9つありますが、予算の都合により、この年度の整備は面積が最も大きい湿原だけを対象としました。具体的には、この湿原の内部に分布する木本群落を皆伐すると共に、堆積した土壌の掘り取りを行いました。整備により湿原内の木本群落は完全に消滅し、その代わりにまとまった面積の裸地が湿原内に出現しました。湿潤な裸地は湿原生植物の新たな生育場所として機能することが予想されます。この予想を確かめるために、2015年度に整備場所の追跡調査を実施したところ、整備後に確認された湿原生植物の種数は25種と整備前の11種よりも大幅に増えていました。種数は今後もさらに増加していくと考えられます。2016年度以降も追跡調査を続けていく方針です。



サギソウが群生する湿原



湿原内に分布する木本群落



木本群落の除去後の状況



整備場所に出現したムラサキミミカキグサ



三田市皿池湿原保全プロジェクト

代表者：石田弘明

協力者：矢倉資喜（公益財団法人ひょうご環境創造協会）

財源：三田市予算、研究部研究費